

# 今後の海岸保全事業の進め方

神奈川県藤沢土木事務所なぎさ河川砂防部



# 今後の海岸保全事業の進め方

**養浜事業は、砂浜の復元、海岸保全という目的を確実に果たしつつあり**（中海岸だけでなく菱沼海岸の保全にも効果を発揮している）、**養浜環境調査においても底質環境、生物相に与える影響もみられず、防護だけでなく環境、利用にも良い効果を発揮しています**。しかし、海岸中央部における2017年1月時点の浜幅Bは約35m（自転車道法肩から約45m）であり、未だ計画浜幅B=40mを達成していません。

**高波浪による一時的な侵食を考慮し、確実に防護機能を確保するため、また目標海浜像を目指すため、養浜を継続して計画汀線まで砂浜の拡幅を図ります**。養浜継続に関する課題と対応は次の通りです。

項目	課題	対応
海岸保全	計画汀線（浜幅）を達成していない。	2015, 2016年のように比較的静穏な波浪条件で、順調に砂浜が回復した場合は、 <b>計画浜幅を達成できる見込みの平成31年度（2020年1月～3月の養浜）まで、養浜事業（3万m<sup>3</sup>/yr）を継続</b> し、その後、 <b>回復した砂浜を維持するための養浜に移行</b> します。 <b>維持養浜移行後は、漁港西側の堆砂など、可能な限り海岸域の砂を活用していきます</b> 。なお早期に計画浜幅を達成した場合は、その時点で維持養浜に移行します。一方、高波浪等により計画浜幅に達成していない場合は、養浜事業を継続します。
養浜材	良質な養浜材を継続的に確保する必要がある。	相模ダム水系から調達した養浜材に加えて、 <b>茅ヶ崎漁港西側堆積域の砂を可能な限り多く活用</b> します。ただし、相模川河口、柳島消波堤前面の侵食に十分注意して進めます。
	養浜材の流出時に発生する海域の濁りを低減させる必要がある。	<b>茅ヶ崎漁港西側堆積域の砂を可能な限り多く活用</b> することで、濁りの原因であるシルトが少ない <b>良質な養浜材を投入することができます</b> 。

# 今後の海岸保全事業の進め方

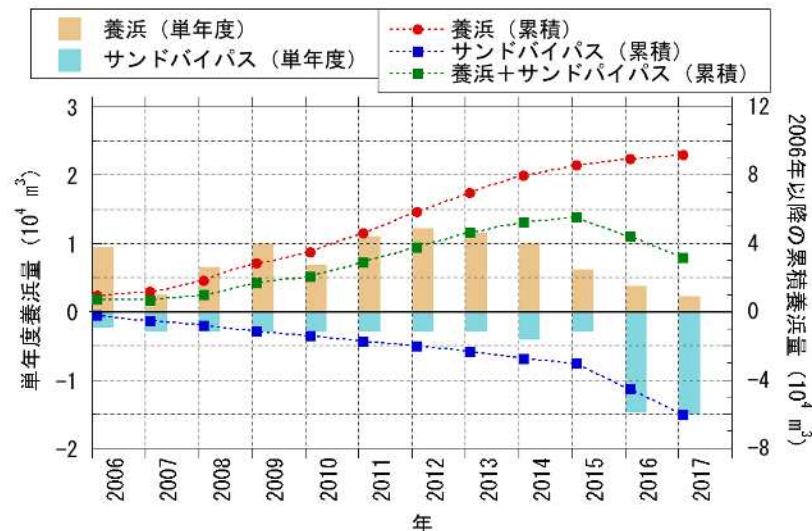
項目	課題	対応
<p>漁業利用，環境への配慮</p>	<p>港口等への影響（堆砂）に配慮して養浜を継続する必要がある．</p>	<p>養浜後に起きた過去の港口付近の堆砂は，長周期の高波浪が長時間作用したことによって起きた沿岸方向一様の地形変化（冲向き漂砂）が原因でした．<u>今後もモニタリングにより注視し，順応的に養浜事業を進めます</u>．一方，<u>漁港西側堆積域での砂の採取は，漁港へ流入する飛砂量を直接的に少なくすることができ，港内堆砂の軽減が期待できます</u></p>
	<p>茅ヶ崎漁港沖の泥等の堆積と，養浜による影響の可能性について確認する必要がある．</p>	<p>茅ヶ崎漁港の沖合では，<math>1.5 \times 10^4 \text{ m}^3/\text{yr}</math>の速度で，主に細砂以下の細粒の堆砂が進んでいることが分かりました．これは<u>相模川河口沖テラスと柳島消波堤の前面海域で侵食が進み，茅ヶ崎漁港西側隣接部で堆積が進むといった広域の地形変化過程において，東向きの沿岸漂砂の一部が防波堤沖を南東方向へ流出していることが原因です</u>．また，<u>柳島地区で行われた養浜が沖の堆積域に与えた影響は小さい</u>ことも明らかになりました．<u>今後もモニタリングにより注視し，順応的に養浜事業を進めます</u>．</p>
<p>海岸利用，環境への配慮</p>	<p>海岸利用や環境に配慮して養浜材の運搬，投入を行う必要がある．</p>	<p><u>必要に応じてメンテナンス（補修）により浜崖などの危険な状態を回避</u>します．</p>

# 今後の海岸保全事業の進め方

平成28年度では、柳島地区に2,201 m<sup>3</sup>、中海岸地区に30,270 m<sup>3</sup>（サンドバイパス15,000 m<sup>3</sup>含む）、菱沼地区に2,577 m<sup>3</sup>の養浜を実施しました。



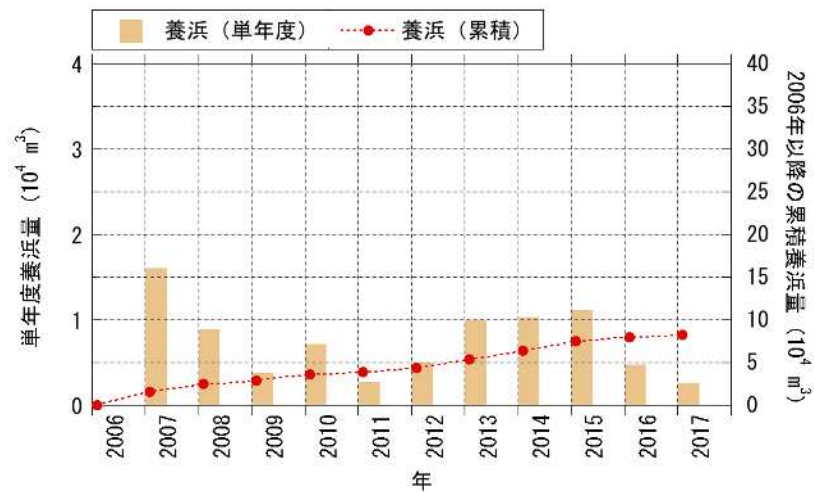
(a) 柳島 養浜V=2,201 m<sup>3</sup> (2016年11~12月)



(b) 中海岸 養浜V = 15,270 m<sup>3</sup> (2016年2~3月)  
+ サンドバイパス V=15,000 m<sup>3</sup> (2016年12月, 2017年1月)



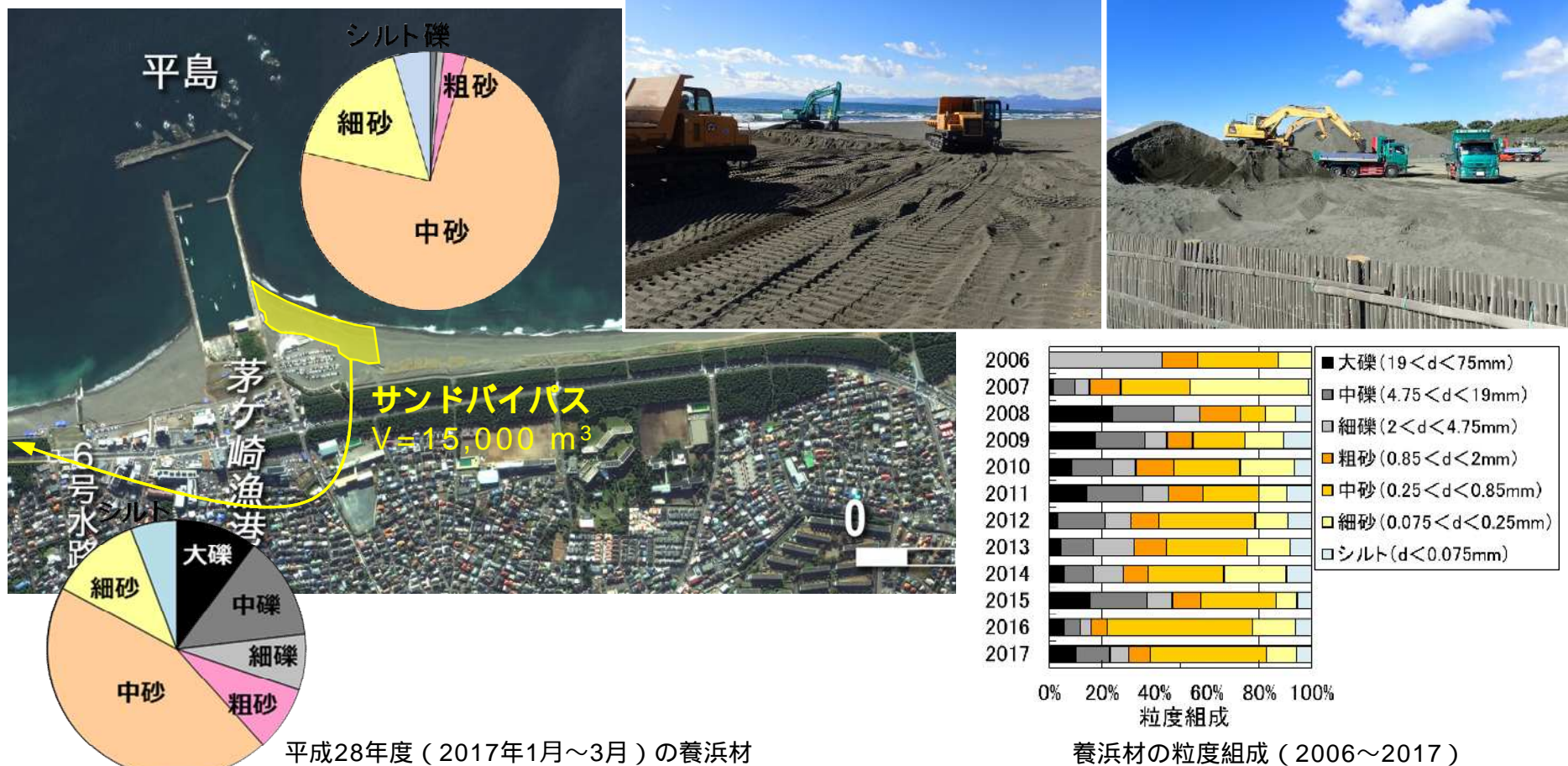
(c) 菱沼 養浜V = 2,577 m<sup>3</sup> (2016年11月~2017年2月)



平成28年度の茅ヶ崎海岸の養浜実績

# 今後の海岸保全事業の進め方

中海岸地区の養浜では、茅ヶ崎漁港西側堆積域の良質な砂を多く活用した養浜を実施しました。



## 新たな課題や注目すべき点

- 採取量の増量による柳島海岸への影響はないか？
- 漁港西側から港内（泊地）へ飛砂により流入する砂が減少するか？
- 中海岸の養浜材に、サンドバイパスによる粒径の細かい材料（中砂：細砂=8:2）を多く用いた場合、確実に海岸保全が図れるか？

**モニタリングを継続し、順応的に養浜事業を進めていきます。**

養浜事業の継続にご協力をよろしくお願い致します。

2017年元旦